

教育学部 カリキュラム・ポリシー

教育学部のカリキュラムは、実践的で指導力ある教員を養成することを目標として、構成する科目を、学修内容と学修する学年の2つの軸で位置づけています。一つは、教員養成に関わって必要とされる学修内容のまとまりから構成される6つの系です。もう一つは、6つの系を学年に応じて横に区切った段階であり、各学年で学ぶ内容の学修順序を示すことで、学修内容の系統性を示します。これら2つの軸による位置づけで科目群が構成されています。

【教育内容】

1. 社会人として必要とされる能力や教養を身につけるために、共通教育科目として、導入科目群・教養科目群の科目を配置します。
2. 教育の現代的課題や意義、教育に関する基礎理論を身につけるために、教育原理、子どもの発達、教育の社会的・経営的側面に関する科目を配置しています。
3. 各教科の学修内容や学修方法について、理解し、授業する力を身につけるため、各教科指導法、教育内容に関する科目を配置しています。
4. 乳幼児の発達段階、発達障害等の障害特性に応じた指導力を身につけるため、幼児や特別支援教育に関する科目を配置しています。
5. 実践的指導力を身につけるための体験型授業を学年段階で配置しています。
6. 教育に関する専門的な知識を広く深く身につけるために、学修の集大成として「教職実践演習」を配置しています。

【教育方法】

4年間を通して実践的指導力のある教員を養成するための学年段階に応じた教育方法を展開します。

1. 1年次には、教職への入門、子ども理解のための講義やグループワークなどによるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施します。
2. 2年次には、教師の役割についての基礎的知識と学校教育・学校地域連携の理解などを深めるために各教科指導法などを実施します。
3. 3年次には、学習指導・教科内容についての理解の深化と実践的な力量の基礎を身につけるため「教育実習」、「教材開発演習」などを実施します。
4. 4年次には、教師としての実践的指導力の統合・深化を図るため、「教職実践演習」などを実施します。
5. 附属学校園、公立学校および社会福祉施設において実習を行い、大学で学んできたさまざまな理論や技術を適用・検証し、実習後の研究上の課題を発見すると同時に、自己の教職適性を振り返る機会とします。

【教育評価】

1. 各科目の学修成果は、授業科目の到達目標の達成度をシラバスに記載されている評価方法によって、筆記試験、レポート、発表、授業への参加度、演習・実験成果等で評価します。卒業論文については、複数教員による審査を行い、論文及び発表会での報告により評価します。
2. 学生自身が学年ごとに学びを振り返り、自己の課題を設定する「履修カルテ」を作成し、学生自身で到達度や形成的評価活動を行います。さらに、教員がフィードバックを行い、年度ごとの学びを評価します。
3. 4年間の学修成果は、「教育実習」及び実習に関連する科目によって、その到達目標の到達度での総括的評価を行います。
4. 教育学部の IR 調査や単位取得状況等のデータをもとに、教育内容・方法等の評価を行います。